

母の誕生日

マンガ / ぬこ一様ちゃん

わが家のすこやか日記



作品

一般部門

自転車で塾に通っている中学生の長男が、いつもの時間になっても塾から帰宅しない。外はすでに真っ暗。心配からいらだちをつのらせる母。「ただいま。」と元気よくドアを開けた長男が、「お母さん、誕生日おめでとう。」と差し出した小

さなケーキの箱。そうか、今日は自分の誕生日だった。400円しか持っていないなくてピースしか買えなかったなんて。用意していたお説教の言葉をぐっと飲み込み、涙をこらえながら「ありがとう。」とささやいたのが精一杯だった。